

活動テーマ

越境的な交流促進による地域の憩いの拠点づくり

横瀬町全域地区 十文字学園女子大学

1 活動目的

学生が、横瀬町に集う様々な年代や立場の方々との交流を通して町が抱える課題を理解し、その解決に向け大学生目線でチャレンジすることで町民活動の活性化に寄与する。

また、今年度は次の4つを目標とする。

1. チャレンジキッチンENgaWAのイベントに企画アイデアを持って参画する。
2. 交流施設 エリア898やLAC横瀬における活動の支援を行う。
3. 町内の農家での農作業協力を通して交流を促進する。
4. 小学生などを対象とする学校外での学習や居場所づくりの支援を行う。

2 活動地域の現状

横瀬町は、埼玉県西部、秩父盆地の東端に位置し、東京から70km圏内にある山間の町である。人口は、令和4年10月1日現在7,861人（世帯数3,333）で、セメント関連産業、観光農園などを主要産業とする。

横瀬町において、人口減少は深刻な問題であり、2020年1月現在約8,200人の人口は、2060年には約2,600人（趨勢人口）まで減少するという予測がある。これに対し、町では2060年時点で約5,400人の人口規模を維持することを目指した戦略人口を目標として様々な施策を展開している（図1）。

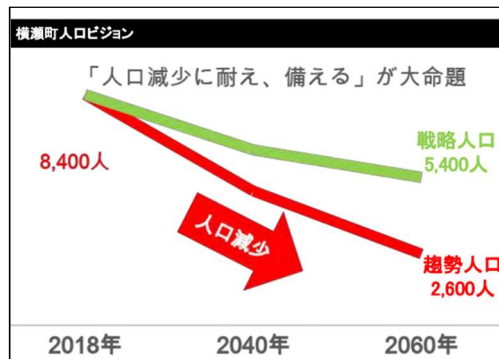


図1 横瀬町人口ビジョン

3 活動内容

令和4年度に実践した活動は表2のとおりである。

実施月	活動名	活動内容
4月	横瀬町を知る活動	LAC横瀬の改装スタッフとして参加 ENgaWAでイベントスタッフとして参加
6月	ENgaWA新茶まつり	6/19（日）ENgaWA新茶まつりに参加 ・お茶をベースにしたドリンク2種類の企画・販売 ・子ども向け「栞づくりワークショップ」実施
9月	ニーズ聞き取り調査	エリア898で聞き取り調査を実施
11月	農家さんのお手伝い	11/05（土）農家さんのサツマイモ洗いのお手伝い
	ヘアメイクスタジオ	11/19（土）ヘアメイクスタジオ実演（会場：エリア898）
	里山まるマルシェ	11/20（日）ENgaWAでオリジナル弁当の販売
12月	よこらぼ審査会	「子ども『つなぐ』プロジェクト」を提案⇒採択
1月	大学連携企画	1/22（日）立教大学舂谷ゼミとの連携企画

		ENgaWAであそぼ_大学連携「どぶろくde相席キッチン」 ・ネギみそ焼きおにぎりの企画・販売
2月～ 3月	子ども「つなぐ」プロジェクト	横瀬小学校3年生の参加者を募集⇒5名参加 横瀬町の魅力を発信する絵本づくり(9回) 島根県隠岐郡海士町立福井小学校とのオンライン交流会

表2 令和4年度の活動

4 成果

①地域住民×来訪者×大学生×大学生

チャレンジキッチン ENgaWA を活動場所として、地域の人々、町外から来訪された人々、他大学の学生など、所属する組織や年代・境遇等が異なる人々が出会い交流する機会を演出する活動が実践できた。そして、6月の新茶まつりではお茶をベースにした2種類のドリンク、11月の里山まるマルシェでは地元野菜を活用した季節の弁当、1月の大学連携企画では横瀬町のネギを使ったネギみそ焼きおにぎりを考案・販売した。いずれも、大学生としての強みを発揮できるよう協議や試食を重ねることで横瀬町の魅力を来訪者に発信しながら、美味しく楽しいひと時を過ごしていただくことができた。

②地域住民×大学生

地域に積極的に足を運び、大学生の若さや感性等をアピールしながら信頼関係を構築する活動として、聞き取りによるニーズ調査と農家のサツマイモ洗いのお手伝い活動を実施した。ニーズ調査の結果から、美容に対する女性の意識や要望等をまとめ、11月のイベントの企画を立ち上げた。また、サツマイモ農家とのつながりから横瀬町の農産物の種類やおいしさを研究し、11月の秋のオリジナル弁当の考案・販売につながった。

③地域の子ども×大学生×島根県の子ども

地域の将来の担い手である横瀬小学校の児童が、大学生や島根県の小さな島の小学生と、年代や環境の異なる越境的な交流を体験しながら、ふるさとの魅力について自分で考え・表現することを支援する活動（よこらぼ企画）に取り組んだ。活動では、3年生を対象に、横瀬町の魅力を伝えるお話を創作し絵本にまとめ、その絵本を島根県の小学生にオンラインで説明する。週1～2回の放課後の時間を使って児童は、大学生との交流を楽しみながら、一人一人がオリジナルの絵本を制作し、自分の言葉でしっかりと説明することができた。

5 課題

①系統的かつ継続的な自主企画の実施

来訪者への提供に耐えうるクオリティの確保及びマーケティングリサーチの重要性を課題として自覚した。こうした課題の解決には、町の行政機関等の関係者並びに町民の方々との幅広いコミュニケーションが必要であり、その成果をもとに、1年間の見通しを持って系統的かつ継続的に商品やイベント等を組み立てていくことが重要である。

活動の中で提供した「お茶のドリンク」、「オリジナル弁当」、「ネギみそ焼きおにぎり」には一定の評価をいただくことができたが、「横瀬町の〇〇」として認めていただくには至らなかった。この点に関しても、今後、大学生のアイデアと地域の食材や習慣等を意識しながら、一貫したコンセプトを確立しつつ、「十文字の学生が取り組んだ〇〇ですね」という評価がいただけるよう綿密に計画を練って臨みたい。

②若者の滞留を促す居場所づくり

大学生の可能性を最大限に引き出すためには、各大学における活動に加えて大学同士が協力しながら活動する「横のつながり」も重要である。今年1月に立教大学舂谷ゼミと連携して実施した大学連携企画は、初めての経験であったが多くの気づきや可能性を見つけることができ、今後につなげていきたい取り組みとなった。来年度は、こうした大学連携の取り組みを、十分なコミュニケーションを取りつつ計画的に実施し、横瀬町における人の交流を一層活発にしていくことが重要であると考えている。

また、横瀬町に暮らす高校生や大学生、隊員の友達など来訪する若者が交流しやすい環境を整えていくことも大事であると感じた。今後は、横瀬町で知り合った若者たちが気軽に腰を下ろしておしゃべりできるような「若者向け交流スペース」づくりについても検討を進めていきたい。

③教育の魅力化と人づくり

横瀬町は、「人づくり」を総合振興計画の第1の柱に掲げ、様々な施策に取り組んでいる。こうした取り組みをパワーアップさせる観点から、町内の小学校及び中学校における教育の更なる魅力化・特色化を推進し、教育を核とした地域活性化が期待される。

今年度のよこらぼのプロジェクトの実践を通じて、横瀬小学校の教育活動とのすり合わせが重要であることを実感した。今回の絵本づくり活動は、町のリソースを活用した探究的な学習活動を目指したが、今後は、系統性や一貫性を重視する観点から、例えば「横瀬町教育魅力化コーディネーター（仮称）」を設置し、学校、教育委員会、町とのコミュニケーションを円滑に進めていくことが望まれる。そうした役割を大学生のような若者が担えるよう引き続き努力していきたい。

6 次年度以降の計画

①「交流」をテーマとした活動計画

横瀬町の農家さんの手伝い→農家さん支援と交流→地元の果物や野菜を生かしたスイーツやランチの開発→ENgaWA等において交流会を企画・実施する。

開発を目指すスイーツやランチについては、テーマやコンセプトを明確にし十文字ならでの商品を開発する。

①春の交流イベント（果物を使ったスイーツやドリンクの開発）

②秋の交流イベント（野菜を使ったランチの開発）

①と②については、他の大学との連携を視野に入れて考えたい。

②「人づくり」をテーマとした活動計画

横瀬小学校の児童を対象として、学校の授業との連続性を意識した探究的な学習プログラムの開発を行いたい。基本的には、長期休業中や放課後といった学校外の活動を考えているが、学校からの要望があれば、インターンシップ活動として学生が授業に参画することも視野に入れたい。

1. オンラインを活用した他地域の学校との交流会

・島根県や埼玉県の小中学生との交流会を実施する。

・地域の食べ物、祭り、歌、観光等に関する発表や意見交換

2. 探求的な学習プログラムの開発と実践

・タブレット端末などICT機器を活用した学習活動

・横瀬町の魅力を盛り込んだ郷土かるたやすごろくなどの開発

活動の様子

A



A 新茶まつりのドリンク

B



B インタビューによるニーズ調査

C



C サツマイモ洗いのお手伝いの様子

A



A ヘアメイクスタジオ実演の様子

B



B オリジナル弁当の販売の様子

C



C オリジナル弁当の販売の様子

A



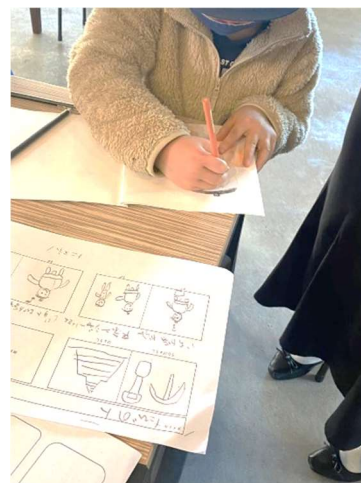
A よこらぼ企画での活動の様子

B



B タブレット端末を使った探究学習

C



C 絵本の絵割を考える活動の様子